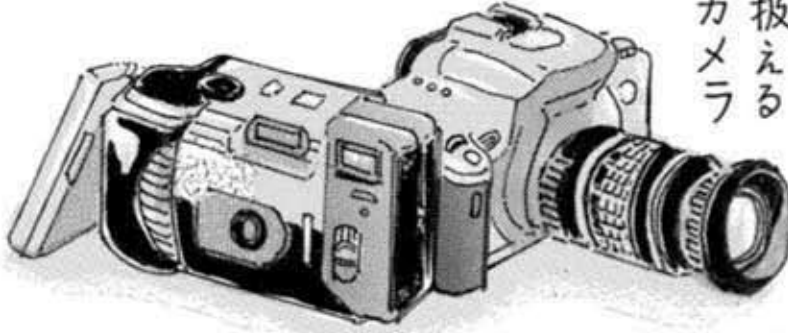


現代では
子供からお
年寄まで
手軽に
扱える
カメラ



このカメラ
今をさかのぼること

約一七〇年前

一八三九年

フランスで

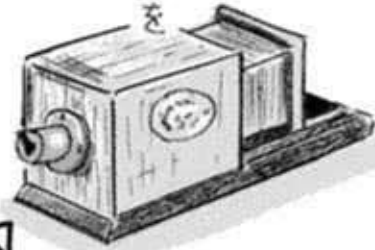
ダゲールが

ダゲレオタイプ(銀板)を

公表したのが

最初と

いわれております



(1839年製ダゲレオタイプ)

日本に初めて
写真機を輸入したのは

日本初プロ写真家

上野彦馬の父

俊え丞

代々
御用時計師



嘉永元年(一八四八年)のこと

その写真機を
入手したといわれる薩摩では

写真術の研究を盛んに

やっておりました

篤姫の義父

藩主島津斉彬様の

写真が安政4年(一八五七年)

撮影されております

殿
しばしの
御辛抱を

うむ





この頃
上野彦馬は
日田の
「咸宜園」から
長崎に戻ってきてまもない
十九歳

オランダ語は
習自っていても
はたして
このままで
いいのだろうか

父・俊え丞は
他界し
写真術は、
伝授されぬまま



長崎に戻ってきて二年後
彦馬は
「医学伝習所」で
オランダ人のボンベ先生から
はじめて舎密(化学)を
学び、いわゆる化学子の
ひとつとして
写真術を知ること
なるわけです

これは
絵ではなく
ホトグラフィ
といえます

こんな美しい絵が
あるのですか？



この頃
写真の焼きつけ
ひとつするのも
ひと苦労

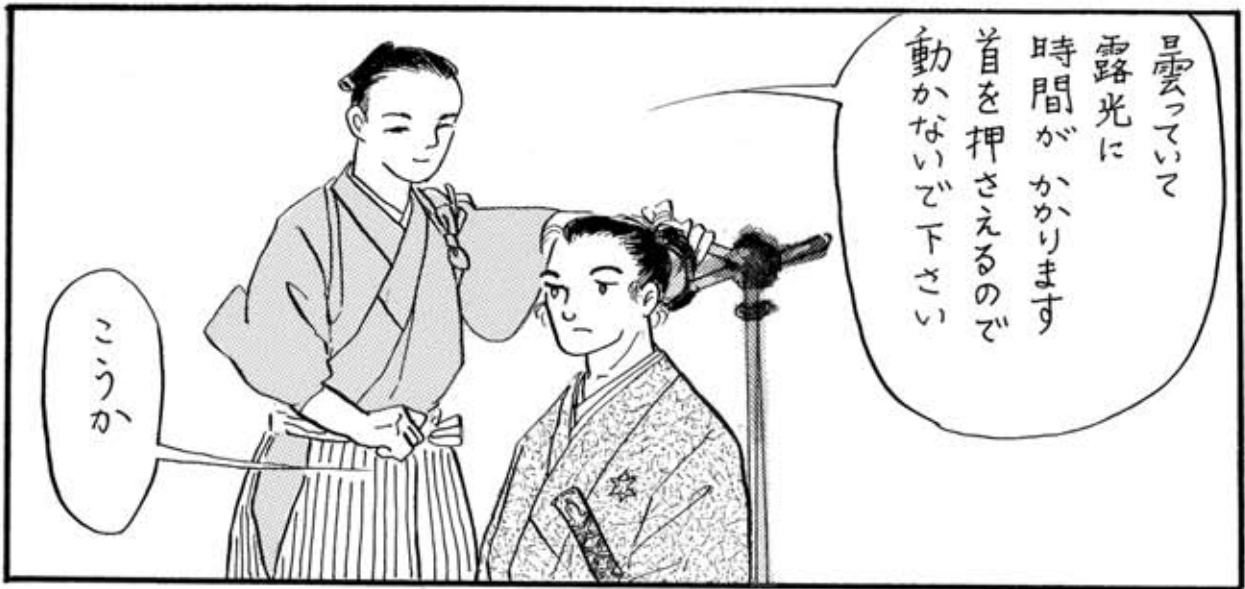
もあ

アンモニアを
つくるのに
牛の骨を埋めて一ヶ月ほど
して掘り出し、さらに
蒸留してつくったそうぞうで

まさしく
骨のおれる
大仕事

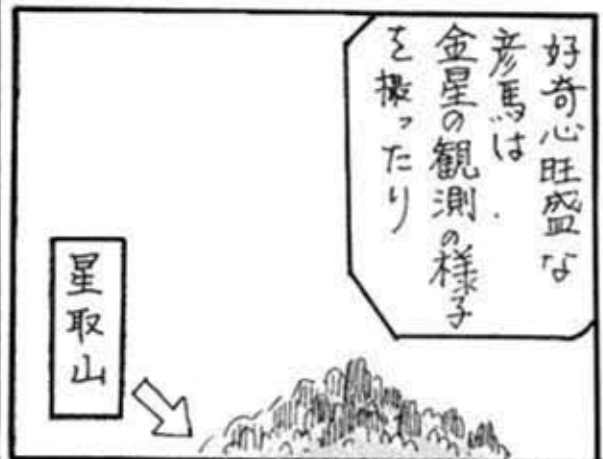
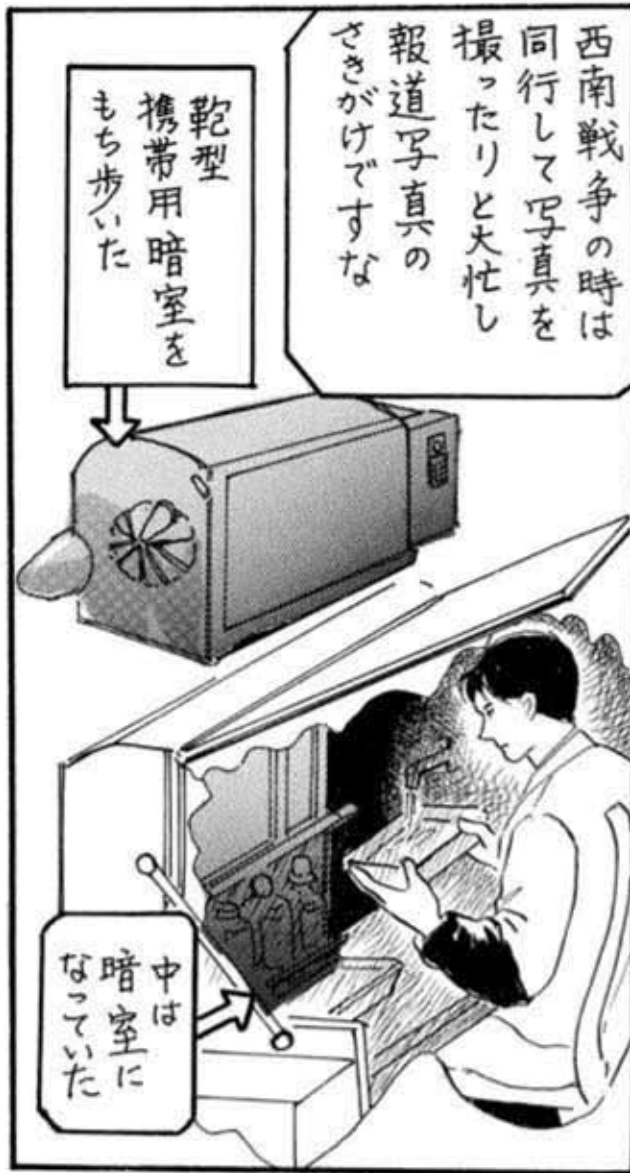
ひどい
臭いだ





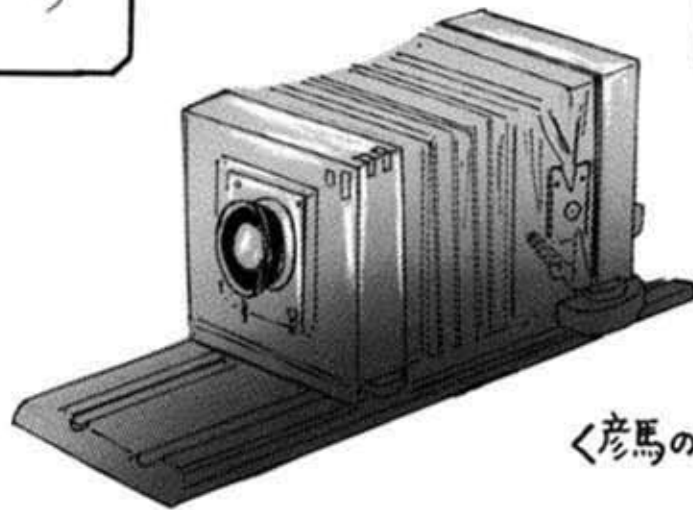
この頃、彦馬が研究した
湿板写真の露光時間は
だいぶ短くなりましたが
お天気に左右されるなど
苦勞はありました。





全国に少しずつ写真が広まってきたといっわけです。ごさいます。

こうして彦馬や弟子達の努力が実り



(キャビネ判用)
〈彦馬の写場用カメラ〉